

# 隨泉寺寺報

平成 25 年 (2013 年) 9 月号 第 5 1 7 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季彼岸会法座

講師 妙蓮寺住職 高橋哲了師

講題 『念仏のすくい』

■彼岸会法要 ～お浄土を思わせて頂く法要～

今年ももうすぐ秋のお彼岸 秋分の日が来ます。

お彼岸の中日は太陽が真東から出て、真西に沈みます。お浄土は西にあるといわれています。西方浄土です。

私が隨泉寺に入寺して2年目のお彼岸の中日のことです。三次の方のお寺にお彼岸の法座に出講して、夕方6時前にお寺に帰ってきました。車から降りたら、おおきいおばあちゃんが、畑に出ておられました。私の姿を見て【いいところに帰ってこられました。あれをみてください。あの向こうにお浄土があるんです。】と指差されました。ちょうど夕日がまさに今落ちようとしていました。本当にきれいな夕日がありました。おばあちゃんはその方向に合掌しておられました。

その大きいおばあちゃんは平成元年9月23日、お彼岸の中日にお浄土に還られました。

今年は25回忌にあたります。9月15日昼席に25回忌を勤めます。誘い合わせてお参り下さい。

## 9月の法座予定

- 9月 2日 ..... 本部役員会
- 9月 2日 ..... 掃除
- 9月 14日 昼席午後1時より ..... 秋季彼岸会法座
- 9月 14日 夜席午後7時より ..... 出張法座 平原東 平原正子氏宅
- 9月 15日 朝席午前10時より ..... 主婦の集い おとき
- 9月 15日 昼席午後1時より ..... 前々坊守 鎌田幸子 25回忌法要
- 10月 2日 午後5時より ..... 門信徒会本部役員会

## ☆ 研修旅行

今年も研修旅行に参ります。行先は庄原 尾引の妙延寺(尾野義宗住職)と吉舎の明覚寺(不二川公勝住職)河内の立栄寺(武野公昭住職)の三か寺です。



尾引の妙延寺は遠縁になるお寺です。特 養護老人施設も開設しておられ、ビハーラ活動も熱心なご住職です。私も尊敬している先輩です。

吉舎の明覚寺は西本願寺の元宗務総長 不二川公勝さんのお寺です。私も住職になったとき帰敬式を執行していただくとき、お世話になりました。不二川公勝さんは今は東京築地本願寺の輪番をしておられるので、お留守かもしれませんが、楽しみにしています。



河内の立栄寺は不二川公勝さんの前にやはり本願寺の宗務総長を歴任された武野以徳さんのお寺で、現在も息子さんの公昭さんが本願寺の宗会議員をされています。私も若院もまた若坊守もお世話になりました。昼食は世羅のワイナリーに行こうと思っています。ちょうどぶどうも収穫のときでおいしいと思います。

## ☆ 主婦の集い 9月15日午前10時～

9月15日朝席は主婦の集いです。とはいっても男の方もどうぞお参りください。出来れば近所の方を誘ってお参りください。本堂が主婦や男の方でいっぱいになれば、うれしいなと思っています。

## ☆ お葬式や法事もどうぞ

8月15日にお寺の本堂でお葬式がありました。庫裏や客殿が完成して初めてです。お葬式は午前10時からでした。住職が言うのもおかしいですが、お寺の本堂での葬式はとても荘厳です。日頃お参りしていた本堂で最後の式でお見送りするのは、とても有り難く、意義深い式でした。これからもどしどし利用してください。

## ☆御礼

永代経懇志	金	参拾萬円	幸村 和宏殿	故	幸村 賢様	特	永代経志として
永代経懇志	金	貳拾萬円	中川 明彦殿	故	中川 茂様	特	永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	越智 和男殿	故	長野 秀雄様	特	永代経志として

## ☆御礼

門信徒会へ	金	一封	中川 明彦殿	故	中川 茂様	香典返しとして
門信徒会へ	金	一封	佐々木 薫殿	故	佐々木 正信様	香典返しとして

## 9月「内に目をむければむけるほど 外の世界が広がって来る」 (鈴木章子)

今日、青少年の様々の問題が目立つようになりました。気になります事の一つは、人生をまじめに考えることを、<暗い>とか、<ださい>とかいって、おとしめるような風潮があることです。一日中明かりをつけて、夜の闇を忘れてしまったり、清潔ばかり強調して、表を飾る世の中になってしまったからでしょうか。



それには私達 大人の生き方も深く関わっています。心に暗い闇を抱えて生きる私のありのままの現実をごまかしたままで、しつかりとした人生・こころ豊かな人生を歩むことはできません。

阿弥陀如来さまの広いお慈悲のおこころは、私の総てを受け容れて下さいます。

暖かい部屋ではコートを脱ぐように、阿弥陀如来さまのお慈悲の中ですから、心を閉ざす必要はありません。ありのままの私を認めますと、あらゆるいのちの繋がりが親しく感じられます。皆、阿弥陀如来さまの光を受けています。

南無阿弥陀佛とお念佛しつつ、共に、手を取って歩ませてくださいませ。

浄土真宗本願寺派門主 大谷光真著「「あけぼのすぎ」―浄土真宗一口法話―



## 「長い間、ありがとうございました・・・。」

母は戦前、父と共に北京で和菓子の製造販売をしていたそうです。父が他界し、一人息子である私の夫を連れて帰国してからは、懸命に働いて家族を支えました。やがて念願の自宅を構えて同居する私たちに惜しみない愛情を注いでくれた母に、改めて感謝しています。

いつも畑仕事に励んでいた母でした。近所の方に教わったり、自分で工夫を凝らしたりして育てた野菜が、わが家の食卓を、毎日 っていたものです。一方で、母はお寺参りを欠かしませんでした。信仰心があつく、朗らかで思いやり深い人だったと振り返っています。

母 ハル子は平成二十五年七月十八日、九十六年の生涯を閉じました。亡くなる二日前、母は同じ病院で療養する夫と対したばかりでした。れの悲しみはつのりますが、困難な時代を生き抜いた母をねぎらい、皆で静かに見送ります。生前、皆様より賜りましたご厚情に、心から感謝申し上げます。

大木 節子

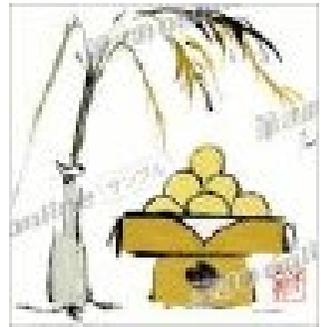
法名 釋深樂 俗名 大木 ハル子 行年 97才 平成25年7月18日往生

## 迷いの岸 彼岸と此岸

「彼岸」は読んで字のごとく「彼の岸」「あちら側の岸辺」という意味です。あちら側というからには「こちら側の岸辺」があるのですが、「此岸」という言葉は頻繁には使われていません。

それは「こちら側」が他なら 私たちの生活する、この現実世界であるからです。それでは私たちが日常生活をいとなむこの世界は、どんな世界だと思いますか？ お釈迦さまは迷いや怒り、貧りに満ちあふれた苦しみの世界だと悟られました。そんなバカな、この世の中ほど楽しい世界は他にないじゃないかと、思う人が多いのではないのでしょうか。

しかし、静かに自分を見つめて考えると、誰でも何かしらかの満たされない思いが、あることに気付くことかと思えます。多くの人は、その満たされない思いのために悩んだり、煩わされたりしていますが、その苦しみが自分自身の欲（欲望）から起こっていて、どうすればそれを解決できるのか、といったことまで解明しながら、生活をしている人は、少ないのではないのでしょうか。



このことをやさしく教えてくださったのがお釈迦さまです。

お釈迦さまは、迷いや苦しみの生活に、さまざま修行を実践することで、心に安らぎを得た生活を送れると、道を示してくれたのです。これこそ迷いを離れたあちら側の岸辺（彼岸）です。

その代表的な教えを、六つの彼岸に至る方法（六波羅蜜）としてあげられました。

- ①思いやりのある施しをする（布施）
- ②よく救えを守る（持戒）
- ③辛いこともよく耐える（忍辱）
- ④一つのことに打ち込む（精進）
- ⑤心おだやかな環境に過ごす（禪定）
- ⑥教えを学ぶ（智慧）

これらの教えを実践することで心の平安を得るのです。

お釈迦さまの教えが日本に入ると、千百年ほど昔の平安時代に、国分寺の僧侶が春と秋に七日間の修行をしたことから、彼岸の行事が起り、定着したのは江戸時代頃からといわれています。



四季のうつろいが鮮明な日本では、春と秋の二回、太陽が真東に上り、真西に沈む日をはさむ一週間、この現実世界では、なかなか迷いを除去することが難しいことを思い、西の方角にあるといわれる極楽浄土へ憧れの心をよせるとともに、仏さまを思う一週間として、今日も大切にすごしましょう。